

I-6 男女平等参画の視点による防災・まちづくりの推進

地球環境の変化によるものなのか、ここ数年一部地域に集中した豪雨により土砂災害や河川の氾濫による災害が日本各地で起こっている。災害は地震だけに限らないと思い知らされる。西東京市内に大きな山や川は無いが、雨水が最終的に流れ着く川が既に溢れてしまったなら低地に逆流して来る事が想像できる。その様な事が起こるかもしれないと考え、危機管理室と協力しながら各小中学校の避難所運営協議会の平時での活動に期待する。と同時に、市民一人ひとりが自分の命を自分で守る意識付けが必要ではないだろうか。そのためにも全市民に配布される市報を有効活用し、平時の備え・いざという時の行動・避難所の確認等、折に触れ啓発して頂きたい。避難所に全市民が収容出来ない事も事実だ。多くの現役世代が不在の時間帯であっても、その時市内に居る人達が、男性であっても女性であってもリーダーシップを発揮し 20 万人の安全を守るには何が必要なのか行政と市民が知恵を出し合う必要がある。

(1) 防災対策における女性の参画拡大

防災会議がどのような立場の方々からなり、どのような話し合いがもたれているのか市民への情報の共有はなされていない。せめて避難所運営協議会で、市民に求められている課題や行政が関わって取り組んでいる内容等を明示してはどうかと思う。単年度持ち回りのような避難所運営協議会の構成メンバーもいるが、小中学校の保護者として関わった方々も被災時を想定した視点での意見を出し合い、引き継いで欲しい。どの避難所を選んでも、最低限の備えが**全市民**に届けられるようにするにはどんな会議を持てば良いのか危機管理室の指導に期待する。

(2) 男女平等参画の視点を取り入れた地域防災活動の推進

避難所での困難を聞くたびに、性別によるニーズの違いがあることに気づかされる。特に家事育児介護を担いがちな女性の視点は重要であるが、その視点を活かすための発言の場も必要である。避難所ではもちろん、その準備段階で、力仕事は男性が、食事や介護は女性が担当という固定的性別役割分業に捉われず、それぞれが得意分野を活かしながら活動する男女平等参画意識を持つことが有事を乗り越える鍵になると考える。

委員会評価	A	B	C	D
H 2 6 年度	0	6	2	0
H 2 7 年度	1	6	2	0
H 2 8 年度	1	7	0	0
H 2 9 年度	1	2	5	0
H 3 0 年度	0	4	4	0

担当課評価	A	B	C	D
H 2 6 年度	2	5	1	0
H 2 7 年度	2	5	1	0
H 2 8 年度	1	7	0	0
H 2 9 年度	1	7	0	0
H 3 0 年度	1	7	0	0

